ナシト云フヘカラサルナリ

○沃度療法

沃度加里ノ療法ハウィレブラント氏ニ據レハ沃度一分、沃度加里二分、餾水十分ノ液ヲ製シ毎三時三滴乃至四滴ヲ投スヘシリーベルマイスナル氏ハ右ノ方ニ從ヒ二百以上ノ患者ヲ治療セシニ熱ノ經過ニ著明ノ變動ヲ來タサスシテ効能明カナラサレ𪜈其死亡數ニ至リテハ沃度ヲ用ヒサルノ他悉ク同樣ニ治療シタル者ニ比スレハ著シク少ナカリシテ以テ其功ノ有無ハ將來尙ホ明カニ實驗スヘキナリ

○甘汞療法

甘汞ハウンデルリヒ、フリードライヒ、リーベルマイステル、ブランド等諸氏ノ實驗ニ據レハ初期ニ於テ〇、三乃至〇、五ヲ二十四時間ニ二三回內服セシムレハ一時下利增多スト雖𪜈漸ク減少シ、熱度モ亦タ多少一時減退シ死亡數大ニ減少セリ故ニ患者若シ九日以內ナレハ甘汞療法ヲ施スヲ良トス甘汞ノ良効ヲ奏スルヿアルハ單ニ下泄スルニ基キ他ノ下劑モ同一ノ効ヲ致スヤ否ニ至テハ尙ホ比較的實驗ヲ施スニ非レハ容易ニ判斷ヲ下スヘカラス而ノ初期ニ下劑ヲ用ウレハ未タ固着セサル窒扶斯毒ノ一部排泄セラルヽニ基因スルモ亦タ知ルヘカラサルナリ夫ノ水銀ヲ以テ病毒ニ特効アルヿハ未タ確定セス

此病ノ治療ハ特異療法ヲ除クノ外專ラ患者ニ不利ナル諸件ヲ避ケ、危險ナル病徵ヲ制シ、滋養物ヲ以テ体力ヲ保護スルヿアリ、先ツ病室ハ狹隘ナラスシテ換氣法ヲ宜シクシ、溫度ハ驗溫器ヲ以テ計リ、可成攝氏十六度乃至十七度半トナスヘシ、臥褥ハ皺襞ヲ生セサラシメ、臥被ハ輕キ者ヲ撰ミ、襯衣ハ不潔トナル毎ニ更換シ、飲用ニハ純粹ノ井水若クハ「ゼルテル」水ヲ與ヘ、下利甚シケレハ燕麥煎若クハ大麥煎ヲ與フ、植物酸類、菓汁等ヲ加フレハ後ニハ却テ厭忌セシム、精神昏迷スルトキハ飲水ノ需用ヲ感覺セサルカ故ニ注意シ之ヲ與フヘシ、曾テ「ホメナパチー」派ノ盛ナリシトキ凡テ熱發患者ニハ可成營養物ヲ與ヘス之ヲ與フレハ熱ノ昇騰ヲ來ストセリ然ルニ其後ニ至リ腸窒扶斯ハ固有ノ病ニ非スシテ營養不給ニ基クト看做シ日々

多量ノ食物ヲ與ヘタルヿアリ是レ皆ナ其極端ニ走リタル者ニシテ醫ハ宜シク其中庸ヲ取ラサルヘカラス、此患者ニシテ滋養物ヲ與ヘサレハ益〻衰弱ヲ增加ス、又タ健体ニ於ルカ如ク多量ノ食品ヲ投セハ腸胃ハ之ヲ消化スル能ハスシテ太タ害アリ故ニ初メヨリ稀薄ノ牛乳、蒸肉羹、後ニハ強肉羹及ヒ鷄卵ヲ與フヘシ然レ𪜈毎常小量ヲ數々用ウルヲ良シトス

此病ノ輕易ナル者ニ於テハ醫藥ヲ要セサレ𪜈患者ヲ安慰センカ爲メニ左方ヲ投スヘシ

○處方

鹽酸　二、〇

サーレツプ漿　一八〇、〇

單舍　三〇、〇

右調匀毎二時一食匙

或ハ格魯兒水五〇、〇餾水一五〇、〇右瓶ニ入レ毎二時一食匙ヲ與フ

○冷水療法

此病ニ於テ最モ恐ルヘキハ高熱ニシテ之ヲ療スルヲ以テ緊要ナリトス、歐洲ニ於テハ熱發病ニ專ラ冷水療法 Kaltwasserbehandlung ヲ施用ス、此法タルヤ嘗テ僅カニ試用シタル者アリシト雖モ明カナル主治ニ於テ次序的ニ此法ヲ施セシハ前世紀ノ終リニ於テジコーム、クッリー氏ヲ以テ首トシ殊ニ腸窒扶斯ニ於テ然リトス、其後此法次第ニ衰ヘタリシカ、獨逸ニ於テ千八百六十年以來再ヒ試用スル所トナリ、現今ハ盛行ワレ法國ニ於テモ此法ヲ用ウルニ至レリ

冷水療法ニ數法アリ、大人ニ於テハ攝氏二十度若クハ尙ホ低キ冷水全身浴ヲ良トス、而シテ入浴ノ時間ハ十分時ヲ常トスルモ浴後久シク凍冷シ或ハ虛脫ヲ來ス者ハ七分乃至五分時ニ短縮スヘシ、浴ヲ出ツレハ身体ヲ拭ハス直チニ乾燥シタル織布ヲ以テ包裹シ直チニ就褥セシメテ輕ク被ヒ足部ハ少シク温ムルヲ良トシ且ツ葡萄酒一酒盃ヲ與ヘ、暫時ノ瞑後衣ヲ服スヘシ、又タ入浴前小量ノ葡萄酒ヲ與フルハ大ニ適當ナリトス、患者虛弱ナレハ稍〻暖温

ナル浴攝氏二十四度ヲ以テ始ムルヿアリト雖ヒ効用大ニ劣リタル者ナリ故ニナムセン氏ノ漸次冷却浴ヲ用ウルヲ好トス、卽チ三十五度ノ温浴ヲ以テ初メ徐々ニ冷水ニ注加シテ終ニ二十二度若クハ尚ホ低度ニ至ラシム、而シテ此浴法ハ稍〻長ク浴セシムルヲ要ス

一般ニ熱度腋窩ニ於テ三十九度、直腸ニ於テ三十九度五分ニ達スレハ冷水浴ヲ施スヘキ時期ナレトモリーベルマイスタル氏ノ實驗ニ由レハ此病ニ於テ熱ノ治療ハ其張進ヲ制止スルヨリハ專ラ弛退若クハ間歇ヲ催起スルニアリ、蓋シ日々數時ノ間平温ニ復スルトキハ体力恢復シテ著シキ害ナク一時ノ体温昇騰ニ堪フル者ナリ、此間歇ヲ來タサント欲スレハ平生体温ノ減少スル際ニ冷水浴ヲ施スヘシ、此時期ハ常ニ午後七時ヨリ翌午前七時ノ間ナレハ此際直腸ニ於テ体温三十九度腋窩ニ於テ三十八度五分ニ達スル毎ニ此法ヲ施スヘシ、又タ多クノ患者ニ於テハ午前十一時頃ヨリ午後二時ノ間熱度下降スルノ傾キアレハ此際モ亦タ之ヲ施スニ適セリ然レトモ熱度

甚タ高ケレハ其余ノ時間ト雖ヒ此法ヲ施スハ勿論ナリトス

此療法ハ單ニ一二回ニ止リ頻回反復セサレハ明了ナル効ナシ、バーゼル（瑞西）ノ病院ニ於テハ全經過中二百回以上浴法ヲ施シタル患者アリ而シテ多クハ之ヲ施スヿ一日四回乃至六回ニシテ其全數ハ四十回乃至六十回ナルヲ要ス、小兒ノ体表面ハ身体ノ容積ニ比スレハ大人ヨリ大ナルカ故ニ稍〻温暖ナル浴ヲ用ヒテ効用ヲ減少スルヿナシ又タ脂肪ニ富メル者ハ羸瘦スル者ヨリハ稍〻冷ニシテ長ク入浴スルヲ要スルモノトス

○冷水浴ノ禁忌

冷水浴ノ禁忌ハ腸出血ナリトス、蓋シ体ノ表面冷却スルトキハ其部ニ貧血ヲ起シ之カ爲メ内部ニ充血ヲ起シテ出血ヲ幇助スルノ恐アレハナリ又タ月經ハ熱度甚シカラサレハ此法ヲ要セスト雖ヒ其度高クシテ他ニ解熱ノ策ナキトキハ施用スルモ妨ケナシ、肺炎「ヒポスターゼ」ノ如キハ禁忌ニ非ス却テ治癒ヲ促ス者ナリ、心臟衰弱ハ禁忌ニシテ此際外表厥冷シ内部熱スルカ爲メニ冷浴ヲ施スモ解熱ノ効ヲ奏スルヿ能ハスシテ却テ身体表面ノ血行ヲ

妨碍スルノ恐アリ然レトモ心力甚タ弱キニ非レハ チヽメセン氏浴ヲ用ウルヲ良シトス、本邦人ハ一般ニ冷水ニ慣習セサルカ故ニ猥リニ冷水浴法ヲ行フヘカラス

冷水灌注法 Kaltuebergiessungen ハ前者ト温度及ヒ時間ヲ同フスルト雖モ解熱ノ効稍〻劣リ且不快ノ感覺ヲ起ス者ナリ故ニ他ニ高熱ヲ制スルノ醫法ナキカ或ハ解熱ノ目的ヨリハ精神官能若シハ呼吸ヲ强ク起奮セント欲スル爲メニ要アル者ナリ

冷布裹法 Kalte Einwickelungen ハ本邦ニ於テ最モ適切ナル者ニシテ衰弱シタル者ト雖モ好ク堪フル者ナリ、此法ヲ施サント欲スレハ織布ヲ冷水ニ漬シ、微ニ壓縮シテ水ノ点滴セサルヲ度トシ以テ軀幹、上肢等ヲ包裹シ毎十分乃至二十分ニ交換スヘシ

冷水洗滌法 Kalet Abwasschungen ハ假令ヒ氷水ヲ用ウルモ解熱ノ効著シカラス

局處解熱法ハ寒湯法、氷囊ノ如キヲ用ウ而全身ノ熱度ニハ著シキ功驗ナシト雖モ心部若クハ頭部ニ貼スル作ハ稍〻深部ニ至ル迄其部ノ熱度ヲ減少シ熱ノ爲メニ生スル臟器ノ障害ヲ避クルヲ得ルモノナリ

熱度ノ頑固ナル者ハ冷水療法モ功ヲ奏セサルヿアリ又往々此法ヲ施スヿ能ハサルヿアレハ解熱藥ヲ用ヒサルヘカラス、規尼涅ハ多量ニ用ヒサレハ効ナシ、歐洲ニ於テハ一、五乃至三、〇ヲ半時乃至一時間ニ内服セシムト雖モ本邦ニ於テハ一、五ヲ過クヘカラス、實驗ニ徵スルニ劇熱ニシテ時々間歇スル者ハ劇烈ナラスシテ稽留シ或ハ僅カニ弛張スル者ニ比スレハ危險遙カニ少ナケレハ解熱藥ヲ用ウルニ於テハ可成充分ナル間歇ヲ致サシムヘシ、故ニ規尼涅ニ由テ平温ニ復スルカ或ハ少ナクモ三十八度ニ下ラサレハ滿足スルヲ得サルナリ、此藥劑ヲ投スルノ時刻ハ午後四時ヨリ八時ノ間ヲ好シトス、是レ其効尋常朝ノ弛期ニ符合スルヲ以テナリ、水楊酸ハ專ラ其曹達鹽ヲ用ヒ、歐洲ニ於テハ五、〇乃至一二、〇ヲ一日ノ量トナセ共本邦ニ

於テハ三、〇乃至四、〇ナリトス、此藥劑ノ規尼涅ニ優ル所以ハ頭痛、昏憒、耳鳴及ヒ耳聾ヲ起ス「少ナキニアリ

「カエリン」ハ輓今諸種ノ熱發病ニ試用シ毎二時ニ〇、三ヲ内服セシム、實斐啓里斯ハ規尼涅ノ功ナキ者ニ於テ〇、七ヲ乃至一、二〇ヲ散藥或ハ丸藥トナシ三十六時間ニ内服セシム而往々効ヲ奏スル「アリト雖モ心臟麻痺ノ徴候アル者ニハ慢ニ用ウヘカラス

合併症ノ療法ハ左ノ如シ

輕易ノ下利ハ治療ヲ要セス只下泄太多量ニメ頻リニ反復スル「ハ収斂劑ヲ用ウヘシ、例之「明礬水(四、〇)一八〇、〇單寧水(一、五乃至二、〇)一八〇、〇ニ單阿片丁幾ヲ加ヘタル者ノ如シ、心力衰弱ノ病徴ヲ發セハ力メテ規尼涅若クハ水楊酸ヲ以テ熱度ヲ減少セシメ旁ラ心部ニ氷湯法ヲ施シ又タ患者ニ應メ多少「アルコール」ヲ内用セシムヘシ、實斐啓里斯ハ啻ニ益ナキ而已ナラス却テ害アリトス、腦症ハ解熱療法大ニ効アリ、頭痛劇シ

○合併症療法

ケレハ頭部ニ氷嚢ヲ貼シ、與奮甚タシキカ或ハ不眠ヲ起セハ「モルヒネ」ヲ投與ス、甚タ不快ナル裹危後重ニハ單阿片丁幾十滴乃至十二滴ヲ加ヘタル澱粉(ルケ、クリヤエル)灌腸(ヲ施メ効アリ、氣腸著シケレハ腹部ニ寒湯法ヲ施シ冷水灌腸ヲ「バルサム」塗擦ヲ行ヒ、必要ナレハ彈力咽頭消息子ヲ送入シ秘結スレハ灌腸ヲ施シ或ハ甘汞若クハ蓖麻子油ヲ用ウ、腸出血ニ於テハ嚴ニ身体ヲ安靜ニシ、頻ニ寒湯法或ハ氷湯法ヲ施シ腸ノ蠕動機ヲ遏止スルカ爲ニ阿片ヲ投シ、且ツ鉛糖、明礬ノ如キ止血藥ヲ與フ、腸穿孔ヲ來セハ身体ヲ安靜ニ處スルノ他阿片ヲ與ヘ毎一時乃至二時〇、〇六數日間ハ飲料ヲ禁スヘシ渴ヲ醫スル爲ノ水小量ヲ用ウ腹膜炎ヲ發セハ下腹ニ寒湯法ヲ施スヘシ、下垂充血ヲ防ケルハ害ナシ氷片若クハ氷ト欲スレハ勉メテ心力ヲ保護スヘシ又タ屢臥狀ヲ變換セシメ時々深吸氣ヲ營マシム、利尿筋ノ麻痺ハ不熟錬家及ヒ不注意家ノ往々發見セサル所トナリ大害ヲ生スル者ナシ「ハ一日二回ハ導尿管(カテーテル)ヲ以テ浊尿スヘシ、眠瘡ハ冷水療法ヲ施用セシ以來大ニ減少セリト云フ而シテ本邦ニ於テハ一般ニ

此症寡キハ上已ニ論述セリ、若シ眠瘡ノ初期ナル紅班（エリユテーム）ヲ生セハ氣枕ヲ以テ患部ヲ壓迫セサラシメ且ツ日々「ヒーラルド」水、稀薄「ブランヂー」或ハ赤葡萄酒ヲ以テ洗滌スヘシ、表皮剝脫セハ鉛、亞鉛若クハ單寧軟膏「アウテンリ」氏眠瘡遏止軟膏ヲ貼シ或ハ硝酸銀ヲ以テ輕ク腐蝕スヘシ、若シ底面不齊ニシテ深キ物質缺損部ヲ生セハ防腐藥ヲ以テ外科的療法ヲ施スヘシ、若シ脈頻數ト「ナ」ナリ虛脫及ヒ衰弱危險ノ度ニ達セハ强葡萄酒或ハ强キ麥酒ヲ與フヘシ、「アルコホル」ヲ內服セシムレハ熱度增加スルトナスハ誤謬ニシテ只ヒ之ヲ用ウルヿ度ニ過キ或ハ時ナラサルニ之ヲ用ウレハ心機旺盛、頭部血積及ヒ溫熱ノ感覺ヲ生スルヿアリ、凡テ体力甚ダシク衰憊スルヲ待タスシテ第二週ノ終或ハ第三週ノ初メニ於テ衰弱ヲ始ムルニ當リ日々弱葡萄酒ヲ與フルヲ良トス

恢復期ニ於テハ專ラ食品ニ注意シ、此期ニ於テハ胃液ノ分泌尙ホ未タ多カラサルカ故ニ小量ノ食品ヲ數々與ヘテ充分ニ消化セシムヘシ、僅微ノ消化

機障害、下利、嘔吐ノ如キハ未タ全ク瘢痕ヲ結ハザル潰瘍ヲシテ穿孔セシムルヿアリ、患者ハ早クトモ解熱後五六日ヲ經サレハ離褥スヘカラス而シテ多クハ尙ホ長ク病褥ニアラサルヘカラス、起立スルヿ早キニ過クルトキハ再發シ或ハ失神ヲ起シ、往々恢復期ヲ遷延スルヿアリ、又タ全經過中ハ精神及ヒ身体ヲ安靜ニシ決メテ病勢ニ忤ヒ止ムヲ得ス就褥セサルヲ得サルニ至ル迄忍耐スルヿ勿レ、恢復ノ還延スル者ハ山氣或ハ海氣ニ送リ神經痛、頭痛、麻痺等ヲ殘サハ平流電機及ヒ各適當ノ療法ヲ施スヘシ

內科醫範卷之一終

正誤表

丁數	行數	誤	正
十	九	似一酸酵イ	似、一、酸酵
十一	上段	Panaaitische	Parasitische
十二	十	病疾	疾病
十四	十二	ハヒフ、ニーマ イヒル	ハヒフ、ニーマ イヒル
十六	十二	病疾	疾病
十八	上段	揮病性	揮發性
仝		瘴氣性傳染毒	瘴氣性傳染病
仝		瘴氣觸接性傳染毒	瘴氣觸接性傳染病
二十七	四	痲疹	痲疹
二十八		來曆	來歷
三十一	上段	索因	素因
三十二	一	パータム	パーヌム
三十七	欄外	痲疹	痲疹
四十	七	顏壞ノ	顏壞ノ
四十九	一六	規危涅	規尼涅
仝	欄外	徵候、發疹期	療法
五十	欄外	徵候、成熟期、落屑期	療法
五十九	二	Scalaina	Scarlatina
六十四	四	疑固シ	凝固シ
六十七	二	(膚ノ)ハ	衍
仝	五	(疹)ハ	衍

正誤

七十四	十	腦	腦	九十二	一希ナリ
七十五	十三(單純薔薇)ノ下ニ疹字ヲ脫ス			仝	人名ノ右側ニアル復線ハ單線トナス
七十八	四	養果	養菓	百	五(腐)ハ
七十九	人名ハ凡テ右側ニ單線ヲ附スヘシ		衍	仝	七(ニ歸シ)ノ上ニ腐字ヲ脫ス
八十	二Hox	Pox		百〇二	十三發疹後
仝	六人名ノ右側ニ附スル復線ハ單線ニ改ム			百十	十二セシヲ
仝	八	西歷	西曆	百十七	六水罷法
八十三	人名ノ右側ニ附スル復線ハ單線ニ改ム			百十八	四葡萄酒
八十六 八十七 八十八	人名ノ右側ニ附スル復線ハ單線ニ改ム			仝	十(二食)ノ下ニ匙字ヲ脫ス
八十八	十一	疎發、疎痘	疎發、疎痘	百十九	十二偶發スルナリ屢偶發スルナリ屢々々ルヲ確信トス
仝	十三Variolaconfluens		Variola confluens	百二十	十合象國
九十一	六星セサルモノナリ		星スルモノナリ	百廿二	二種痘漿

正誤

百廿二	五發スル	欲スル	百廿五	欄外	腸室扶斯
百廿三	上段(牛痘)ノ下ニ種字ヲ脫ス		百廿六	欄外	仝
百廿四	六(種接ス)ノ下ニシ字ヲ脫ス		百四十三	三Intiltration	
百廿五	二灼然	灼熱	百四十五	十一遠シ	達シ
百廿六	七(痘漿)ノ上ニ牛字ヲ脫ス		百四十六	一片砲	片塊
百廿七	十二疑團ヲ壞ス	疑團ヲ懷ス	百四十九	七腦背髓	腦脊髓
百卅	一微熱	微熱	仝	上段神經係	神經系
仝	仝薔薇疹	薔薇疹	百五十	二肺閉縮(アトエンクヌーセ)	肺閉縮(アトエンクヌーセ)
仝	四十箇乃至之十箇	十箇乃至三十箇	仝	十三邊緣	邊緣
百卅一	四風瘡	風痘	百十二	十二我カ室扶斯	我カ室扶斯
百卅二	八Enteric fever	Enteric fever	百五十八	十三(中心ノ障)ノ下ニ害ノ二字ヲ脫ス	
百卅五	十三(不潔)ノ側ニアル甲ハ乙		百六十三	九遑フス	逞フス
仝	上段(甲)	(乙)	百六十五	五遙	逍遙

頁	欄外	正	誤
百六十六	(合併)ノ下ニ症ノ字ヲ脫ス		
仝	二潰陽	潰瘍	
仝	十一催スモノトス	促スモノトス	
百六十七	二帽針頭大ヨリ乃至頭大	帽針頭大ヨリ蠶豆大	
百七十二	八減筋	減節	
仝	十限觸性麻痺	限晝性麻痺	
仝	十二背髓勞	脊髓勞	
百七十三	二水揚酸	水楊酸	
仝	三內腹	內服	
仝	八昂騰シ	昇騰シ	
仝	九汗疹	汗疹	
百七十四	七疾病、經過	疾病ノ經過	
白七十五	十二腸室扶斯	腸室扶斯	
百七十八	五脂肪家	脂肪家	
仝	十堪ヘサル者ナリ	堪ヘサル者ニシテ	
百八十三	十二暫時ノ襯後衣ヲ	暫時ノ後襯衣ヲ	
百八十六	十二kalet	kalte	
百八十九	十裏危後重	裏危後重	

明治十六年三月廿七日版權免許
同　十七年二月　出版

出版
東京府士族
菅之芳

編輯并出版人
岡山縣備前國岡山區
西田町四番地寄留
高知縣士族
中濱東一郎
岡山縣備前國岡山區
東田町廿一番地寄留

版權免許
中濱東一郎
菅之芳　著書目錄
病床必携醫療寶鑑　全定價金貳圓
內科醫範　全七冊
卷二以下續々出版

發兌書肆

定價金七拾八錢

東京日本橋區馬喰町三丁目五番地　島村利助

仝　本郷區本郷青木町三丁目一番地　島村利助支店

仝　日本橋區通三丁目　丸屋善七

仝　京橋區南傳馬町一丁目十番地　叢書閣

大坂府心齋橋筋北久寶寺町四十三番地　叢書閣

岡山縣備前國岡山區上之町　細謹舍